

「他大学との相互連携における地域連携活動による学生交流および、それによるFDの推進」

2月16日(木)から2月18日(土)にかけて、本学、愛知東邦大学(大学間連携協定校)と中京学院大学の学生が集まり、本学特別研究である「他大学との相互連携における地域連携活動による学生交流および、それによるFDの推進」(主担:西川三恵子教授)による学生発表会を執り行いました。



1日目は、門司港を訪れ、エクスカージョンを行いました。このエクスカージョンでは、他地域より来学された学生たちに歴史

や文化といった地域特性を理解してもらうために、学生が主体的に散策を行いました。

2日目午前中はオンラインを通じて中京学院大学林学長よりご挨拶を賜り、本学柳事務局長や九州女子大学・九州女子短期大学田中事務局長他、中京学院大学の他の先生がたも見守る中、学生セッションでは、本学を代表して、経済学部地域創造学科4年生谷本潤さん、同学科の3年生宇曾未夢さんが合同でPepper(ペッパーくん)を用いた防災教育の取り組み「あそぼうさい」についての発表をし、同学科4年の豊原幸汰さんは、自身が携わった大学における地域活動について発表をしました。その後、中京学院大学の学生5名が



岐阜県東濃圏域について、SDGsの観点より課題を分析し、解決方法を提案する発表を行い、愛知東邦大学の学生2名が名古屋で行われている学生の主体的活動である「センキョ割」や「名古屋六大学討論会プロジェクト」の活動報告を行いました。これらの発表に対し、活発な質疑応答が行われ、学生同士の意見交換もされました。

2日目午後には、本学地域創造学科堂野崎准教授を講師に、地域連携活動に関するグループワーク「地域活動におけるユニバーサルデザイン」をテーマに行いました。各大学の学生がそれぞれに分かれ3つのグループを形成し、各グループで考えをまとめ上げ、全体にシェアを行いました。学生たちは、主体的に意見を交換し合いました。その後、中京学



院大学大須賀元彦講師による「SDGsの推進に向けた地域連携活動ー域学連携の視点を中心にー」について講演が行われました。さらに、学生交流会を行い、学生同士の交流をしながら、別室にて各大学の担当教員で地域連携活動に関するFDについての交流をし、今後の活動について検討を行いました。

3日目は、エクスカージョンとして、「太宰府天満宮」を訪れ、ポ

ランティアガイドさんの説明を受けながら天満宮を散策し、門司港とはまた異なった地域の特性を理解しながら、他大学の学生と交流を深めました。

今回の越境的学習である学生発表会を通じて、他大学との地域活動を主軸とした意見交換ができ、学生たちも新たな考えやアプローチ方法を学べた様子でした。

(文責：経済学部地域創造学科 堂野崎 融)

